

「ぶんぶんひろば」における授業の実践  
**「演奏活動Ⅰ・Ⅱ」**  
 (子どものための音楽会)  
 (学芸学部 音楽学科)

### 1. ねらい

2011年度からスタートした「子どものための音楽会」は7年目を迎え、ぶんぶんひろばの活動として定着してきた。この音楽会は広島文化学園大学学芸学部音楽学科2年次に開講している「演奏活動Ⅰ」（前期：選択科目）、「演奏活動Ⅱ」（後期：選択科目）の実践学習の一環として開催している音楽会で、月に2回、木曜日の11時30分から12時の30分間、子ども・子育て支援研究センターぶんぶんひろばにて実施している。

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」は、子どもを対象とした演奏会について、企画の立て方、プログラムの組み方、しゃべり方、立ち振る舞いを始め、子どもたちをひきつけるためのパフォーマンス力を磨くための科目である。さらに、子どもや保護者の演奏ニーズを把握し、そのニーズに応じた演奏会を開催できるようにすることを目標にしている。



写真1 たくさんの親子が参加する音楽会

### 2. 活動の内容

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」の授業において、音楽会の企画を立てるところから始まり、選曲、ペープサートなどの準備を行い、演奏や演出の練習を重ね、通しリハーサルを行ったうえで本番を実施している。また、演奏会後は保護者のアンケート集計およびDVD視聴による振り返り（反転学習）を必ず行い、報告書を作成し反省点をもとに次の音楽会を企画する。といった流れで実施している。

音楽会の約束事として、グループ毎に2・3曲

の手遊び歌を用意すること、そして子ども達が簡易楽器などを使って音楽に参加する場面を作ることなどを条件とし、その他の曲目などについてはグループ楽器編成にあった内容と演出を自由に考えても良いとしている。また、音楽学科学生にふさわしい演奏のクオリティを維持する事を約束している。

学生らは30分のプログラムを、童謡、唱歌、クラシック、アニメソングなどの演奏ほか、手遊び歌、音楽絵本や紙芝居、ペープサート、ダンスなどの企画を考え、子ども達を飽きさせないような工夫を凝らしながら準備していく。また、ピアスなどの装飾品はつけない事、子ども達が使用した楽器はすべて一つ一つ除菌シートで拭きながら片付けることを徹底させることで、子ども達にとって必要な安全面や衛生面への配慮などについても学んでいる。

### 3. 2017年度実績報告

2017年度は前後6回、後期8あわせて14回の「子どものための音楽会」を開催した。前期の履修学生は11名、後期の履修学生は10名である。前期後期ともに2グループで交互に演奏会を開催する形で実施した。

表1 2017年度「子どものための音楽会」実施概要

回	実施日	楽器編成
前期	1 5月18日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽、ピアノ
	2 5月25日(木)	トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、声楽、ピアノ
	3 6月8日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽、ピアノ
	4 6月22日(木)	トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、声楽、ピアノ
後期	5 7月6日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽、ピアノ
	6 7月20日(木)	トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、声楽、ピアノ
	7 10月19日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽、ピアノ
	8 10月26日(木)	フルート、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、ピアノ
	9 11月9日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽、ピアノ
	10 11月16日(木)	フルート、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、ピアノ
	11 12月7日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽、ピアノ
	12 12月14日(木)	フルート、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、ピアノ
	13 1月18日(木)	トランペット、トロンボーン、チューバ、声楽、ピアノ
	14 1月25日(木)	フルート、トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム、チューバ、ピアノ

(実践資料および授業記録から作成)

表1は2017年度に開催した「子どものための音楽会」の概要をまとめたものである。それぞれのグループ毎にテーマや副題を決めて30分のプログラムを組み立てた。

前期と後期を続けて履修する学生が殆どではあるが、前期だけ、後期だけと半期の履修だけで終わる学生も少なからず居ることから、特に後期については新規に履修する学生への配慮も考慮しながらグループ編成を検討している。



写真2 視覚支援を取り入れた演出

写真2は、12月の音楽会の様子である。譜面台には季節のイラストを譜面台のカバーとして飾りつけ、写真右側にはクリスマスツリーをイメージした装飾を用意した。また、進行役のボーカルの男子学生はサンタ姿になり、視覚からも楽しめる音楽会を企画した。子どもを対象にした音楽会は視覚的な支援が効果的であることから、キャラクターや季節に合わせたペープサートなどを用意することで、子どもたちには視覚的にも楽しめる音楽会を目指し準備をおこなっている。



写真3 音楽会を見学する学生の様子

音楽会は2グループで、それぞれが月に1回ずつ音楽会を開催するが、出演しないグループに属する学生は、親子と一緒に音楽会に参加し、客観的に演奏者や親子の様子を観察する活動を取り入れた。写真3は、親子と一緒に音楽会に参加する、出演しないグループに属する学生たちの様子である。親子と同じ目線で、一緒に参加することで、楽器を配るときの配慮や、親子からのステージの見え方などを、体感を通して学ぶことができ、回を重ねるごとに、客観的な視点で演出を考えることができるようになるなどの効果があった。

#### 4. 今後の課題と展望

保護者へのアンケート調査は①プログラムの中で良かった曲、②子どもに聴かせたい曲、③実際に家庭で子どもに聴かせている曲、④子どもの年齢と性別、⑤音楽会の参加回数、⑥自由記述（学生へのメッセージ・要望など）の6項目を設定しており、学生たちは音楽会終了ごとに集計し、次回の本番に向けての参考資料にしている。



写真4 保護者にアンケートを依頼する様子

アンケートの集計結果を次に活かす。という点において、アンケートによるニーズ調査が役立てられている様子が窺えるが、アンケートの結果に振り回されてしまい実際の子どもの様子から得た学びを活かす。という点が希薄になってしまう状況も見られた。保護者のニーズと子どもたちの実際の様子、そして学生たちが伝えたい思いが合わさって良い音楽会となると考えられる。

次年度は、アンケート結果はもちろんのこと実際に目で見て感じた経験を次に活かせるような指導を充実させたい。

（文責：学芸学部 音楽学科 高橋 千絵）